

大阪医療センター附属看護学校の入学応募者数の 状況と応募者確保のための対策

松村 泰志 池田 仁美 菅山 明子

第76回国立病院総合医学会
2022年10月7日 於 熊本

IRYO Vol. 77 No. 6 (394-399) 2023

要旨

国立病院機構大阪医療センター附属看護学校は大阪市内にあり、昭和24年に現在の地に開設した歴史のある看護学校である。現在、入学定員80人であり、指定校・公募の推薦枠を20人、社会人入試枠を20人、一般入試枠を40人としてきた。応募者数は、社会人入試では平成29年度で75人、令和2年度で81人、一般入試では、それぞれ122人、135人と安定した応募があった。しかし、令和3年度には、社会人入試枠で58人、一般入試枠で99人と減少し、令和4年度は、それぞれ40人、67人とさらに減少した。看護学生応募者数を確保するための対策を講じる必要があることから、本校の学生を対象として、本校の入学希望者を増やすための方法についてアンケート調査を実施し、147人（59%）から回答を得た。回答内容では、ホームページの工夫、Social Networking Service（SNS）の活用、高等学校との連携についての記載が多かった。平成4年度は、推薦入学の枠を増やしたこと、Instagramを開始したこと、在学生によるメッセージを作成し、卒業した高等学校に配布したこと、オープンキャンパスとは別に保護者や社会人入学希望者が来校しやすい夜間に学校説明会を実施したことなどの対策を講じた。令和5年度の応募者は令和4年度に対し減らなかったが、今後、入学応募者が減らないよう、推薦枠を適切な数に設定し、ホームページ、SNSをうまく活用し、高等学校訪問をこまめに実施し、夜間の説明会を実施するなどを実施していく予定である。

キーワード 看護学校, 応募者, 入試

はじめに

文部科学省「学校基本調査」¹⁾によると、高校卒業生の数は1992（平成4）年にピークの181万人となり、その後減少し、2022（令和4）年は99万人となった。また、卒業生の大学進学希望は増える傾向にある。看護師養成校の最近10年の傾向では、看護師養成校への進学は2018年にピークとなった後減

少している。この内、大学進学者は増加した（2013年：19,376人から2022年：26,517人）のに対し、3年課程の看護専修学校等は2017年をピークに減少傾向にある（2013年：28,612人、2017年：29,822人、2022年：26,475人）²⁾。看護学生数は受け入れ側の数で決まっているので、入学応募者数の推移は捉えていないが、少子化が進んで高校卒業生数が減ってきていること、大学進学率が増える傾向にあること

国立病院機構大阪医療センター附属看護学校

著者連絡先：松村泰志 国立病院機構大阪医療センター附属看護学校 学校長

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14

e-mail：matsumura.yasushi.zv@mail.hosp.go.jp

(2023年3月15日受付 2023年8月4日受理)

Number of Applicants for Admission to NHO Osaka National Hospital Nursing School and Measures to Secure Applicants

Yasushi Matsumura, Hitomi Ikeda and Akiko Sugayama, NHO Osaka National Hospital Nursing School

(Received Mar. 15, 2023, Accepted Aug. 4, 2023)

Key words：nursing school, applicants, entrance examination

表1 大阪医療センター附属看護学校の定員数と入学応募者数の推移

年度	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R元	R2	R3	R4
定員数	120	120	120	80	80	80	80	80	80	80
推薦指定校	27	25	24	21	18	15	17	20	16	12
推薦公募	—	—	—	—	—	—	27	41	19	20
社会人	135	161	113	97	75	48	64	81	58	40
一般	248	234	179	114	122	151	130	135	99	67
計	410	420	316	232	215	214	238	277	192	139

を考えると、看護専修学校への応募者数は減る傾向にあると推測される。

大阪府下には、全体で62の看護学校があり、うち大学が20、専修学校が40ある³⁾。大学は、相対的に大阪府の北部に多い傾向がある。国立病院機構大阪医療センター附属看護学校（本校）は、地理的には大阪府の中央に位置している。

本校は、昭和22年9月に国立大阪病院附属高等看護学院として河内長野分院に開設され、昭和29年に現在の国立大阪病院本院に移転した。昭和50年に国立大阪病院附属看護学校に校名を変更し、1学年の学生定員を100名とした。昭和56年に助産課程を併設し、国立大阪病院附属看護助産学校に校名変更したが、平成13年度で助産課程を閉校した。平成13年国立大阪病院附属看護学校、平成16年に独立行政法人国立病院機構大阪医療センター附属看護学校と現在の校名に変更となった。平成21年から1学年の学生定員120名に増員したが、平成28年度から80名に変更し、現在に至っている。

入試枠では、指定校・公募の推薦枠を20人、社会人入試枠を20人、一般入試枠を40人としてきた。本校の偏差値は57との評価とされており、大阪府下の看護師養成校の中でトップグループである。これまで、入学定員数の確保に問題はなかったが、令和3年から入学応募者数が減る傾向が認められた。入学応募者数が減ると、優秀な学生を確保しづらい状況になることが懸念されるため、これ以上の応募者数が減らないようにしたい。本報告では、本校の入学応募者の状況を報告し、広報の工夫について学生に対しアンケート調査を実施したのでその結果を報告し、本校で考える応募者確保のための対策を示す。

入学定員数と入学応募者数の変遷

本校の定員数と入学応募者数の推移を表1に示す。平成27年までは定員120人に対し、平成26年に

は420人の応募があったが平成27年に316人に減り、平成28年に定員を80人に減らした。平成28年の応募者は232人、令和2年のみ推薦数を増やして277人と多かったが、ほぼ安定した応募者数であったが、令和3年に192人、令和4年に139人と著しく減った。コロナ感染拡大が令和2年2月からであり、令和3年・4年の入学応募者数が減ったのは、コロナ禍での看護師の大変さが大きく報道されたことに関係があるかもしれない。

学生へのアンケート調査と結果

入学応募者を増やすための広報活動の見直しをする上で、入学応募者に近い学生の意見を参考にしたいと考え、本校の2022年在学中の学生249名に対しアンケート調査を実施した。アンケートの主旨、無記名とし成績への影響はないことを文書と口頭により説明した。アンケートはGoogle formsを利用し、URLのQRコードを提示し、各自のスマートフォン等で回答してもらった。

質問内容は、回答者自身のこととして、学年、受験した入学試験、本学を選択した理由、併願して受験した学校を問い、回答者の意見として、本校の魅力・強み、本校に入学したいと思ってもらうための工夫について自由記載方式で回答を求めた。

回答者数は147人、回答率は59%であった。回答者の内訳を図1に示す。各学年から均等に回答があり、受験した入学試験枠の比率も、入学者枠と同様であった。本校が第一希望であった学生は75%、併願の学校は大学と専門学校は同数であった（図2）。本校を選んだ理由を図3に示す。国家試験の合格率が高いこと、授業料が安いこと、交通の便がよいこと、国立病院機構であること、実習施設が充実していること、実習施設が近いことが多く挙げられた。

学生からみた本校の魅力・強みの回答をまとめ表2に示す。本学を選択した理由と一致するが、自由

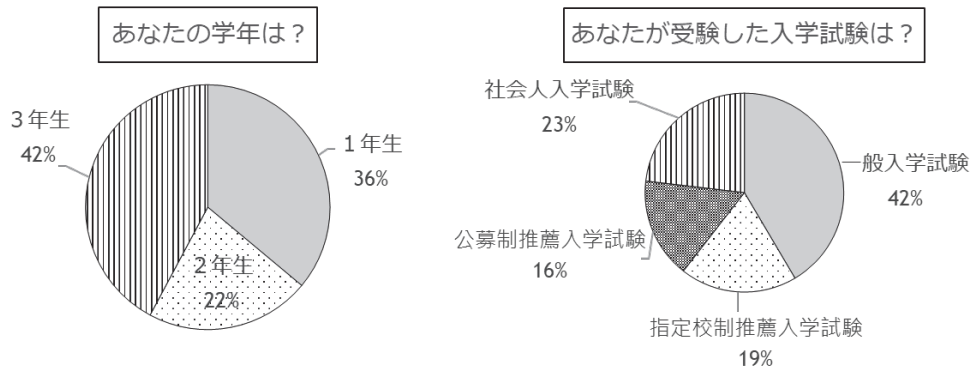


図1 アンケートの回答者の内訳

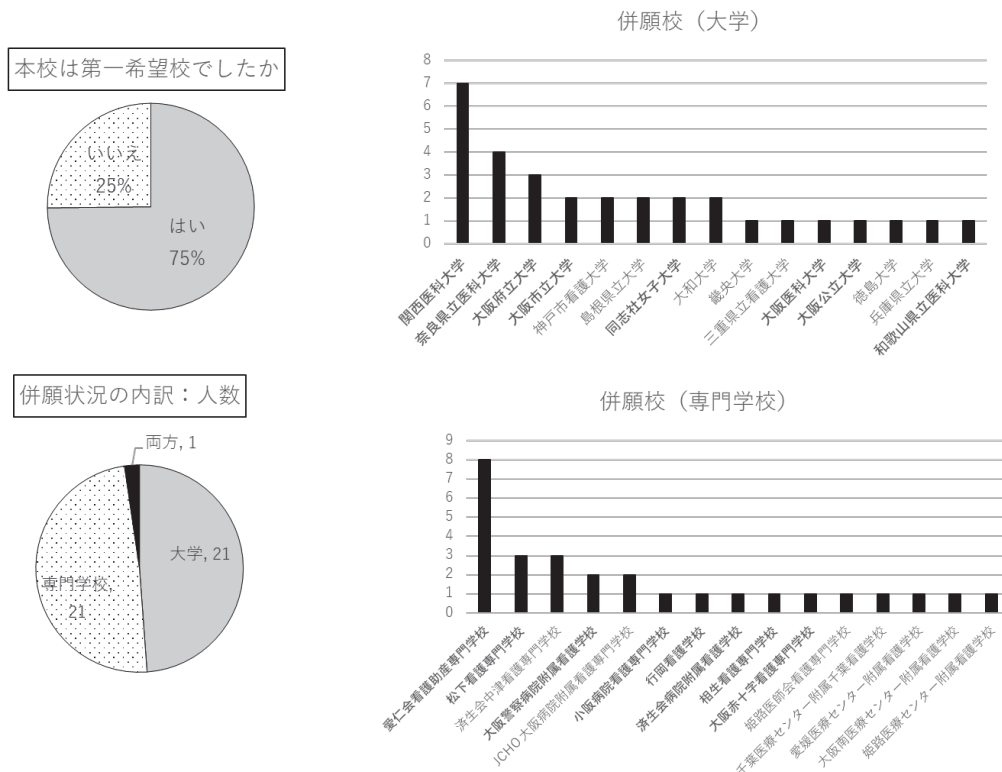


図2 大阪医療センター附属看護学校との併願学校

記載としたため、学生自身の言葉で意見が聞けた。教育体制、教育側を高く評価する声も聞かせてもらった。社会人学生にとってよい学ぶ環境を提供していることも評価されていた。

本校に入学したいと思ってもらうためにどのような工夫をしたらよいかの回答をまとめ表3に示す。ホームページの工夫、SNSの活用、高等学校との連携について多くの意見が得られた。学生が学んでいる様子など、学校の雰囲気がわかるコンテンツを掲載すべき、頻回に更新すべき、勉強方法やノートの作り方などを掲載すべきなど、学生ならではの意見が聴取できた。また、母校の高等学校にアクセスしてもよいといってくれる学生もいた。

応募者確保のために実施した対策

令和4年度の入学応募者数が減ったことから、次年度にさらに減ることがないように対策を検討し、令和4年度に実施可能なものから実施した。

まず1つ目に推薦枠を拡大した。推薦指定校は、これまで1校につき1名としていたが、2名の推薦を希望する高校があったことから、高等学校偏差値が55以上で過去4年間の間に3年以上の応募があった高校については2名までの推薦を受け入れることとした。また、公募推薦を増やすために、過去に推薦の実績がなくても高等学校偏差値が50-62で本校まで片道1.5時間以内の高等学校に対して公募推薦

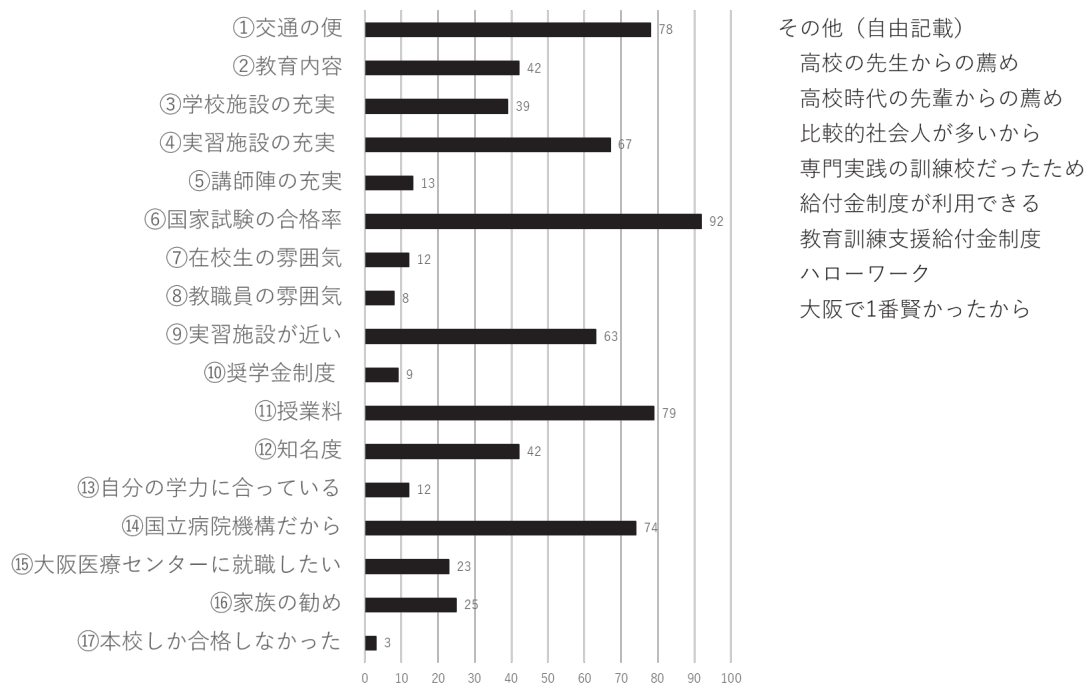


図3 大阪医療センター附属看護学校を選んだ理由

表2 学生から見た大阪医療センター附属看護学校の魅力

- 立地がよい
- 校舎がきれいで、実習設備が充実している
- 国家試験対策がしっかりされており、国家試験合格率が高い（100%）
- 国立病院機構の病院に就職しやすい
- 偏差値が高く（偏差値57）、学生の質が高い
- 自主性が重んじられている
- 母体病院があり、実習が充実している
- コロナ禍でも実習できる（病院でワクチン接種を実施）
- 先生が親身で、一人ひとりをしっかりみてくれている
- 現役の医師や看護師から指導が受けられ、現場のことを教えてくれて興味深い
- 講師陣の質が高く、質問がしやすい雰囲気がある
- 現役生と社会人学生が仲良くして、多様性があり、さまざまな価値観を学べる
- 社会人向けに教育訓練支援給付金が適用されるため、経済面の負担が抑えられる

を求める文書を発送した。

2つ目にInstagramを開設した（図4）。本校の日々の学校生活の様子を画像で見せることで、看護学校を検討している高校生に親しみをもちてもらえるようにした。

3つ目に、在生によるメッセージを作成し、卒業した高等学校に配布した。推薦指定校23校を対象に、本校での学びがイメージできるようなメッセージを在校生が卒業した高等学校に向けて作成した。また、高等学校訪問時に、在校生の近況報告として配布する資料とした。

4つ目に保護者・受験生を対象に、夜間開催の学校説明会を開催した。オープンキャンパスは毎年実施しているが、コロナ感染拡大防止策として令和4

年度は保護者の来校をお断りしたことから、保護者や社会人入学を考える人が来やすい時間帯に学校説明会を実施した。参加者は、来校者は34名で、そのうち9名が保護者で受験生と一緒に来校していた。Webでの視聴を可としたところ、Webからの参加者が22名あった。内容は、「医療における看護師の役割」を学校長が説明し、「大阪医療センター附属看護学校について」を副学校長から、「入学試験・実習施設について」を教育主事から説明した。また、事前に質問を受け付け、その回答、希望者には個別相談を行った。学校長からは、看護師の仕事が多様であること、4年制の看護大学と対比し、3年制の看護学校の卒業生は、同じ教育内容を学び、同じ国家試験を受けるので、看護師の資格に差はなく卒業

表3 大阪医療センター附属看護学校に入学したいと思ってもらうための工夫

<p>ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親しみやすさと見やすさを備えたデザインとする ・在校生の学校生活の様子がわかる内容で、在校生の声、写真を多く掲載した方がよい ・国家試験の成績や就職のサポート体制を掲載した方がよい ・社会人でも入学しやすい環境であることをアピールすべき ・講師陣の紹介があってもよい ・更新頻度は多い方がよい <p>SNSの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校生の普段の学校生活をアップするとよいと思う ・YouTubeチャンネルがあると、参考になる ・頻回に更新しないといけない ・看護学生でヒットするよう工夫する必要がある ・勉強方法やノートの作り方など、先輩の見本があれば参考になる <p>高等学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット、オープンキャンパス情報を多くの高校に送る ・在校生が母校に説明しに行くことがあってもよい

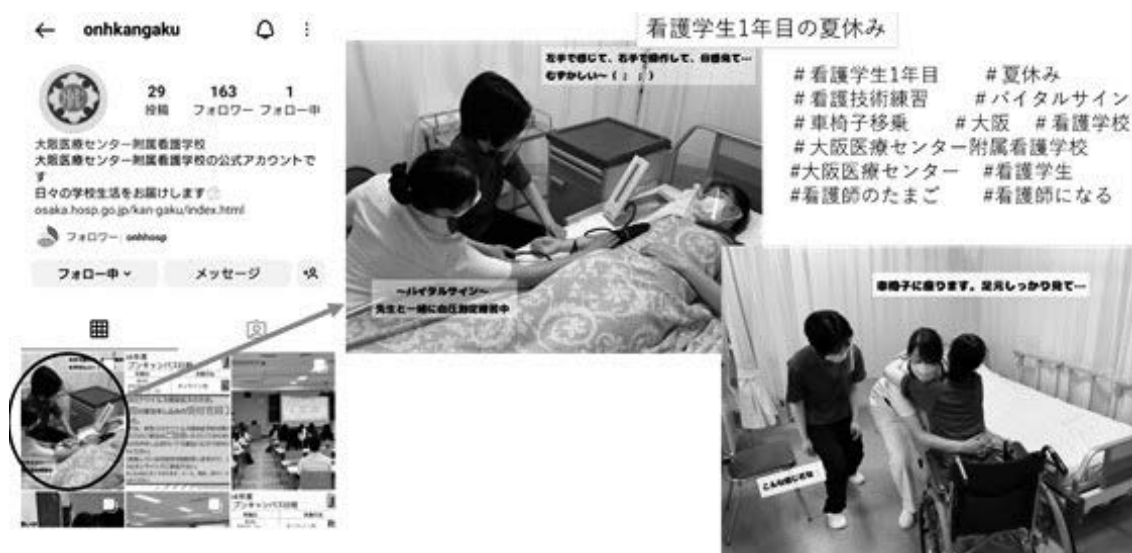


図4 大阪医療センター附属看護学校のInstagram

後の待遇に差はないこと、入学時から4年後を比較すると、3年制の看護学校を卒業して1年実践で働いた人の方が看護大学で学んだ直後の人より実力は高いこと、その1年分の給与を含めると圧倒的に学費は低いこと、看護師として勤務し5年以後に専門看護師、認定看護師、診療看護師、特定行為研修修了看護師等の資格をとる機会があり、資格取得には大きな意義があることを説明した。

応募者確保のための対策

令和5年度入学試験応募者数は、指定校推薦が13人、公募推薦が19人、社会人入試が37人、一般入試が73人で計142だった。令和4年度から微増した。

令和3年・4年で入学応募者数の減は、少子化傾向や大学希望へのシフト傾向では説明しにくい減少率であり、別の要因を考えるべきであり、おそらく、コロナ禍の看護師の大変さが大きく報道されたことが原因していると思われる。コロナ禍が落ち着いてきていることから、この要因によりさらに減ることにはならないと考えるが、忘れられることもないため、増加に転じることも期待しにくい。

応募者数を増やすための対策として、推薦枠を増やすことがある。1回の受験で失敗するリスクを考えると、推薦で確実に希望する学校に進学したいとするニーズがあり、推薦入学を希望する学生は多い。本校は、看護学校の中では偏差値が高く、看護師を目指す学生にとっては、本校を推薦で合格すること

を希望する学生は、それなりの数があると思われる。

学生を対象としたアンケート調査の結果、高校生が進学を考える際、ホームページやSNSからの情報をよく見ていることがわかった。ホームページで丁寧に学校の説明をするだけでなく、画像で本校による印象、親しみやすさを感じてもらうことが重要との意見であった。SNSでは更新を頻回にすることが重要であり、学生にも協力してもらい、まずはInstagramから開始した。勉強方法やノートの作り方などをアップするとよいなど、学生ならではのよいアイデアが寄せられた。

本校を含め、病院が看護学校を併設する場合は3年制の学校であることが多いが、近年看護大学を新設するところが増えた。一般には、短期大学よりも大学を卒業する方が就職やその後のキャリアアップには有利とのイメージがあり、このことが看護学校に影響していると推測する。しかし、看護師の場合、国家試験で厳格に資格が付与され、大学を卒業する方が専修学校を卒業するよりも就職やキャリアアップに有利になるとは聞かない。大学では4年かけて教えることを専修学校では3年間で教えるため、密度が濃くなり厳しくなることはある。学生生活を勉強以外のことも含め楽しみたい、余裕を持って勉強したいと考える学生は大学を好むと思われるが、それ以外に大学にメリットがあるとは思えない。こうしたことを、高校生や保護者に伝えることが重要である。高等学校へパンフレット等の送付を行うこと、

在校生も含め高校を訪問して直接説明することを行っていききたい。また、保護者や社会人を対象とした夜間の説明会も継続する予定である。

本校では社会人入学生が比較的多い。社会人を体験した上で看護師になることを希望しているので、専修学校の方が短期間で免許がとれ、学費が安いことのメリットが大きいと思われる。本校は、社会人学生にはよい環境と聞く。こうした本校のよさを社会人で看護師になることを希望する人に届けるべきと考ええる。

学生から見ても本校にはよい点が多くあり、ホームページを工夫したりSNSを活用したりするなど、よい点を本校に応募を考えている人にしっかり伝える工夫をしていきたい。

利益相反自己申告：申告すべきものなし

[文献]

- 1) 文部科学省. 学校基本調査
(https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm)
- 2) 厚生労働省. 看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/100-1.html>)
- 3) 大阪府. 2022看護への道
(<https://www.pref.osaka.lg.jp/iryu/kango3/youseisyo.html>)